

神奈川県海老名市

神奈川県相模川左岸土地改良区

いま多少のコストをかけても取り組むべき
再生可能エネルギーの大きな可能性

私は、農業用水路を管理する者として、多くの方に用水路の存在とその役割を再認識していただきたいという想いを長年持っていました。命の源である水を運ぶだけでなく、今回T H Kさんの実証実験に協力できたことでその潜在能力を探れ、一般の方に用水路が与える生活環境への付加価値をアピールできて良かったと思います。

T H Kさんの水流発電機を拝見した時、水車自体を水路に設置する仕組みなので、水路や付属施設にはダメージを与えないことがすぐに分かり、「これなら良い実験ができそうだ」と感じました。通常、水流発電は大がかりな土木工事が伴いますので、シンプルな仕組みが魅力でした。

農業に関わる私たちは、もともと環境保全への関心が高く、特に温暖化対策としての再生可能エネルギーは、いま多少のコストがかかっても、未来のため積極的に取り組みたいと考えていました。水流発電は太陽光や風力とは異なり水が安定的に流れていれば24時間発電できるため、再生可能エネルギーとして大きな可能性を持っていると期待しています。实用段階へ移行できれば、現在水門の自動化を進めていますので、その管理システムの電源用途等、売電ではなく独自電源として活用できる可能性があるのではないかと考えています。



技師 塩脇和弘様

農業と工業、分野は違いますが生産物を作るという意味では同じものづくりです。T H Kさんには今後、異分野の視点から農業を見ていただき、農業に役立つ技術と創造力を生み出して欲しいですね。2015年にも実証実験を行ってまいります。是非とも商品として完成させていただきたいです。今後も用水路の可能性をさらに引き出せるシステム作りをお願いするとともに農業用水路で実験していることを多方面に宣伝して欲しいと思います。

神奈川県相模川左岸土地改良区

昭和5年、現在の相模原市南区、座間市、海老名市、寒川町、藤沢市、茅ヶ崎市に及ぶ2,000ha余の水田にかんがいを目的に「相模川左岸普通水利組合」として発足されました。昭和24年の土地改良法施行に伴い、「神奈川県相模川左岸土地改良区」に組織変更されています。

